

神戸中通信



〒513-0038 鈴鹿市十宮町 1335 TEL 059-382-0305

河曲小学校北から八重垣神社方面を望む

今回の「神戸中通信」は、「不審者から身を守る」「令和 4 年度神戸中学校自己評価書」についてお伝えします。

HP では、神戸中通信をカラーで御覧いただけます。【神戸中 HP「QR コード」】



不審者から“身を守る”！

6 月 10 日（金）に、鈴鹿市に“児童生徒数名を男女問わず連れ去る”といった不審メールが届いたことから、登下校時には教職員等による校区内巡回などの対策を講じました。

このような不審メールは、報道によると全国各地で確認されており、県内でも鈴鹿市以外に“津市，四日市市，松阪市”に届いていたとのことでした。

このような悪質なメールだけでなく、夏の季節を迎えると不審者による“声掛け，つきまとい，隠し撮り，露出”などの被害が増加する傾向にあります。

不審者からの被害を防止するには、生徒自身が“自分の命は自分で守る”といった姿勢で、“危険予知・回避能力”を身に付けることも大切です。

【 不審者から身を守る合言葉は“イカのおすし” 】

- イカ : 知らない人には、ついて行かない
- の : 知らない人の車には、乗らない
- お : 大声で助けを呼ぶ
- す : 危険を感じたら、すぐに逃げる
- し : 不審者のことを、保護者や先生に知らせる

* 不審者の特徴

(車の車種や色・ナンバー，服装，人相，体格，メガネなど装着品)

【 周囲に注意を向けたり，近寄ったりしないようにしたい場所 】

- ◇ 周囲から見えにくい場所や死角になる場所
- ◇ 人通りが少ない場所
- ◇ 防犯灯などがなく暗い場所
- ◇ ごみや不法投棄物が捨てられ，放置されている場所
- ◇ 落書きなどが書かれ，放置されている場所
- ◇ 空き家になっているなど，誰もが容易に入り込むことができる場所

令和4年度神戸中学校“自己評価書”！

令和 4 年度神戸中学校自己評価書をお知らせします。学校では、毎年度自己評価書を作成し、活動指標や成果指標・目標値を定め、教育活動の充実に取り組んでいます。

年度末には、生徒や保護者の方へのアンケート結果や学校運営協議会委員による学校関係者評価を実施し、取組の成果や課題を振り返ることとしています。

学校運営協議会委員の方々には、本年度は、年間 3 回の授業参観ウィークや生徒会役員との意見交換会を実施し、教育活動の状況を把握していただくこととしています。

- *の数値の％は、4 段階評価の内、トップボックスの割合
- *のない数値の％は、4 団評価の内、上位 2 項目の肯定的評価の割合

項目	活動指標(改善方策)	成果指標	R2実績	R3実績	R4目標
学力向上	Chromebookを活用した学習活動や家庭学習を積極的に進める。	分かり易く授業を工夫してくれているとする生徒の割合	* 44.4%	* 47.4%	* 52.5%
	2・3年生数学科で習熟度別学習を実施し、学習意欲の向上と学習の定着を図る。				
	学力課題となる「読み解く力」と「表す力」を培う授業改善に全教科で取り組む。	授業の工夫、改善を組織的に行っているとする教師の割合	* 73.9%	* 55.1%	* 60.6%
	めあてと振り返りの質的向上及び協働的な学びに向けた授業形態の工夫に全教科で取り組む。				
長期欠席・不登校の改善	教育相談部会で個別の支援方を検討するとともに緊密な情報共有を行う。	先生は良いところを認めてくれると思う生徒の割合	* 41.3%	* 47.1%	* 52.5%
	登校対策教育支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、医療機関等と定期的に情報共有を行う。				
	個々の実態に応じた支援方を検討する。	自分には、よいところがあると思う生徒の割合	*29.4%	*29.9%	*33.3%
	出身小学校と対応等の情報共有を図る。				
人権教育の推進	いじめの問題や人権問題について教職員の情報共有を迅速で確実に行う。	クラスで安心して学ぶことができている生徒の割合	*47.2%	*51.4%	*53.6%
	相談窓口の定期的な周知や、相談体制の機能強化を図る。				
	人権教育カリキュラムに基づく系統的な人権学習を実施する。	クラスで人に対する思いやりが大切にされていると捉える生徒の割合	*36.6%	*41.8%	*45.5%
	いじめの問題に関する生徒会の取組を行う。				
特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーターを要とした支援方策の連絡調整機能の充実強化を図る。	特に配慮を要する生徒への組織的工夫改善への教師の割合	*39.1%	*42.9%	*43.8%
	特別支援学級担任、協力学級担任、特別支援教育コーディネーター、介助員等との緊密な情報共有を行い生徒理解を深める。				
	保護者に学習や生活場面での伸びや進歩についてこまめに伝える。	教師は、生徒のことをよく理解していると捉える保護者の割合	*76.8%	*77.6%	*79.5%
	保護者の不安や願いを把握する機会を設定する。				
教職員の総勤務時間の縮減	定時退校日の主体的設定に取り組む。	一人あたりの月の平均時間外労働時間	18.8時間	19.4時間	20.5時間
	部活動指針に基づき部活動活動時間及び休養日を遵守する。				
	毎月の教職員の勤務実態を提示し、働き方改革への意識向上を図る。	1人当たりの年平均休暇取得目標日数	21.8日	20.0日	22.0日
	毎月1時間以上の休暇取得を推奨する。				
学校と地域との連携	学校運営協議会委員や保護者・地域への積極的な情報発信を行う。	通信やHPなどで、情報を家庭へ積極的に提供していると捉える保護者の割合	83.3%	87.3%	88.2%
	校区小中学校連携各部会での具体的な取組を実施する。				
	家庭学習定着に向けた学校運営協議会での協議を行う。	教育方針をわかりやすく伝えているとする保護者の割合	65.7%	68.9%	71.1%
	学校支援ボランティアの活用を検討する。				